

各 位

会 社 名 株式会社GRCS
代表者名 代表取締役社長 佐々木 慈和
コード番号：9250 東証グロース
問合せ先 取締役 田中 郁恵
TEL. 03-6272-9191

2026年11月期 第2四半期決算 質疑応答集

この質疑応答集は、2026年7月15日（水）に発表した2026年11月期 第2四半期の決算情報開示後に株主・投資家の皆さまからいただいたご質問及び当社で想定しておりました質問についてまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部表現の変更や内容の加筆・修正を行っております。

Q 第2四半期の売上高が過去最高となった主な要因は何ですか？

A GRCセキュリティ事業では、既存顧客における案件深耕により売上高が大きく成長しました。また、フィナンシャルテクノロジー事業ではアジアでの新規案件を受注し、全社の成長を牽引しました。

Q GRCセキュリティ事業の売上高が前年と比較し11.2%増となった要因は何ですか？

A セキュリティ需要拡大を見越し、主に既存顧客におけるニーズを的確に捉えた結果、取引規模の拡大および案件深耕が順調に進展しました。上期は計画通りに進捗しており、下期も引き続き需要の確実な取り込みに努めてまいります。

Q フィナンシャルテクノロジー事業の第2四半期の実績と下期の見通しについて教えてください。

A 第2四半期にアジアにおける新規案件を受注し、上期の売上高は前年と同規模の売上高となりました。下期も既存顧客を堅守しつつ、アジアでのさらなる新規案件の獲得を見込んでいます。

Q 人員数の推移と今後の採用方針について教えてください。

A GRCセキュリティ事業では計画通りに上期の採用を行いました。下期も引き続き人員体制を拡充します。また、フィナンシャルテクノロジー事業では案件拡大に伴い増員をしています。

Q

売上高が過去最高の一方で、営業利益が赤字となっている理由を教えてください。

A

主な理由は、将来の成長に向けた先行投資とのれん償却額の計上です。自社プロダクトの独自AIモデル開発に伴う投資や、事業拡大を見据えた専門人材の採用活動等におけるコストが発生しています。また、過去のM&A等に伴うのれん償却額が計上されていることも営業利益を押し下げています。

なお、営業利益およびEBITDAは第2四半期単体で黒字転換し、計画を上回る着地となりました。

Q

第2四半期末時点で営業赤字ですが、通期の営業利益予想119百万円は達成可能ですか？

A

第2四半期末時点の営業利益は赤字ですが、期初計画を上回る着地となりました。売上高の堅調な推移や、旺盛なセキュリティ需要を背景に新規にリリースしたサービスの引き合いも多くいただいていること、販管費の適正化を継続していることに加え、事業特性上フィナンシャルテクノロジー事業の利益計上が下期に偏重することから、通期計画の達成を見込んでいます。

Q

昨今AIビジネスを展開する企業が急激に増えていますが、GRCSの独自性を教えてください。

A

AIの導入拡大に比例して、安全性担保やリスク管理の重要性は急速に高まっています。機能や利便性の追求が先行する市場において、当社はガバナンス・セキュリティに特化したスペシャリストとしての知見やノウハウを有している点が他社との明確な差別化要因です。

Q

フィナンシャルテクノロジー事業のアジア展開における強みは何ですか。

A

当事業におけるアジア展開の強みは、香港拠点を軸とした高度な市場開拓力と技術力にあります。資本市場に精通した世界水準のエンジニア体制を擁し、最先端の金融ソリューションの実装力を確立しています。今後も香港拠点を核に現地の最新ニーズをタイムリーに獲得することで、新規案件の獲得を拡大してまいります。

以上

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。